

メインテーマの3Rのシンポジウムでは、国内の実験動物領域で著名な五人の先生を講師として迎え、生殖工学技術の活用によるReduction（使用動物数の削減）、生物を用いない動物実験代替法(Replacement)としてのin silicoの活用、さらにイヌやサルにおける報酬を用いたトレーニング法の紹介 (Refinement) など、近年のこの分野における最新の知見を欧米での動向を含めてご講演を頂きました。

また、熊本大学発生医学研究所の西中村隆一先生には特別講演として「iPS細胞から腎臓を創る」、熊本大学大学院生命科学研究所の若山友彦先生には教育講演として「精子形成の調節機構」、同様に三浦恭子先生には実験動物トピックスとして「長寿・がん化耐性齧歯類ハダカデバネズミ」と題する実験動物技術者にとって非常に有益な講演を頂きました。その他、「生殖工学最先端技術」に関するシンポジウムや多岐にわたる内容（実験手技、微生物感染、遺伝子操作および疾患モデルなど）の一般講演の発表などにおいても熱心な質疑応答が繰り広げられていました。

また、懇親会（熊本ホテルキャッスル）におきましても、熊本大学生命資源研究・支援センター長の尾池雄一先生よりご挨拶を賜り、さらにくまモン隊による「くまモン体操」を来場者のみなさんと一緒に踊るなど、おいしいお酒も手伝ってか会場は大いに盛り上がりました。大会期間中は台風の接近により一部交

通機関等に影響がでしたが、以上述べましたようになんとか無事に本大会を成功裏に終えることができました。これもひとえに多大なご支援頂きました公益財団法人肥後医育振興会をはじめとする関係機関のみなさまのお陰と感謝しております。この場をお借りして改めて厚くお礼申し上げます。

第十九回熊本エイズセミナー 開催報告

ヒトレトロウイルス学共同研究センター
教授 松下 修三

平成三十年十一月六日〜十一月七日の二日間、くまもと県民交流館パレアにて第十九回熊本エイズセミナーを開催いたしました。今年度は試みとしてエイズ免疫研究の新進の国内外の研究者を集めたサテライトセミナーを前日（十一月五日）にエイズ学研究センターにて開催致しました。本セミナーの総参加者は一〇七名で、サテライトセミナーの参加者は六六名、うち、三八名が留学生を含む外国人学生・研究者で、国籍は十五か国に及び、極めて国際色豊かなセミナーとなりました。本セミナーは、講演二五題及びポスター三五題で、サテライトセミナーでは八題の講演に加えて、今後のエイズ研究の展開に関する討論を行うセッションを設けました。

海外から英国 Oxford 大学の Andrew McMichael 博士、Sarah Rowland Jones 博士、米国 NIH の Constantinos Petrov

博士、マイアミ大学の David Watkins 博士、米オレゴン州立大学の深澤嘉伯博士、カナダのサイモンフレーザー大学の Zabrina Brumme 博士、Mark Brockman 博士、国内から鹿児島大学の池田正徳教授、北海道大学の前仲勝実教授など、幅広い世代の計九名の、第一線のエイズ研究者を招聘致しました。初日に原田学長からビデオメッセージをいただくとともに、

前国立感染症研究所所長の倉田毅先生にも講評をいただきました。加えて、国内外の若手研究者の参加を募り、米国ハーバード大学、京都大学、東京医科歯科大学、北海道大学、国立感染症研究所、医薬基盤・健康・栄養研究所の若手研究者および大学院生に旅費支援も行いました。セミナーでは、画像解析技術、システムズ生物学、ゲノム生物学の新しい技術を取り入れた HIV 感染細胞および潜伏感染状態の解析に関する研究、細胞性免疫応答による感染制御、抗ウイルス宿主因子とウイルスの相互作用、サルシ IV 感染動物モデルを用いた研究などについて最新の知見が報告されました。本学大学院生を含む若手研究者の一般演題の中から、研究の質を重視して選考し、四名の若手研究者に五分の口頭発表、および一〇名の学生および若手研究者に一〇分の口頭発表の機会も設け、ポスター討論も一一〇分行い、最優秀ポスターの選出も行いました。

また、エイズ学研究センターが二〇一九年四月より鹿児島大学との新合同センターとなることから HTLV-1 などの他の

レトロウイルスに関するセッションを設けて、鹿児島大学から二名の研究者に口頭およびポスター発表をしていただきました。末筆ながら、本セミナーの開催にご支援いただきました肥後医育振興会の皆様に改めて厚くお礼申し上げます。今後ともご支援のほど、よろしくお願いたします。

第五十四回高血圧関連疾患モデル学会学術総会報告

熊本大学大学院生命科学研究所 腎臓内科学分野 教授 会長 向山 政志

平成三十年十二月六日（木）、七日（金）の二日間、第五十四回高血圧関連疾患モデル学会学術総会をKKRホテル熊本において開催させていただきました。本学会は高血圧関連疾患モデル動物を用いて高血圧の成因を解明し、降圧治療・高血圧合併症予防法の開発に繋げることを目標として活動を行っています。本学会では熊本地震からの復興の最中にある熊本の地で、高血圧研究の復興を考える有意義な学会にしたいと考え、「モデル動物からみた高血圧関連疾患研究の復興」をテーマとして、再建中の熊本城を見上げながらKKRホテル熊本での開催となりました。その結果、総勢一二一名の研究者にご参加いただきました。

招請講演では熊本大学分子遺伝学 尾池雄一先生より「加齢関連疾患の分子病態解明を目指したモデル動物研究の実